

# 淀川水系河川整備基本方針の概要(基本高水のピーク流量、計画高水流量)

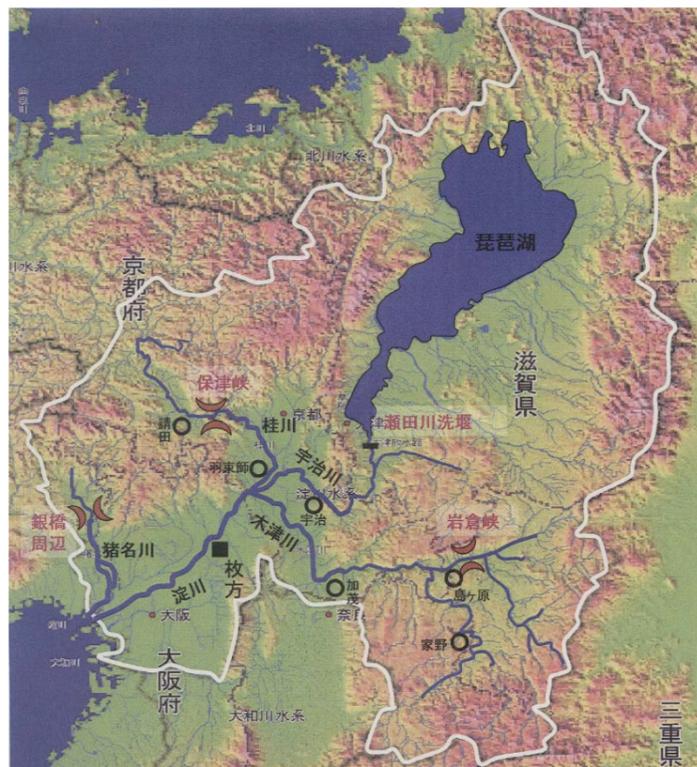
## ■基本高水のピーク流量設定にあたっての主な配慮事項

- ・上流で河川改修を行えば、従来は上流で氾濫していた水を堤防によって人為的に下流の流量増を招くことになっており、このような下流区間での破堤は厳に避けるべきとの認識に立ち、中上流の基本高水ピーク流量を設定。
- ・流域全体の治水安全度の向上を図る観点から、所要の堤防等の整備や洪水調節施設の整備を行った後、下流に影響を及ぼさない範囲で、原則として瀬田川洗堰の全閉操作は行わないこととし、洪水時においても洗堰設置前と同程度の流量を流下させることとする。

## 基本高水のピーク流量

赤字: 基本方針における基本高水のピーク流量

	工事实施基本計画	基本方針 (琵琶湖流出ゼロ)	基本方針 (琵琶湖からの流出を考慮)
枚方	17,000	17,000	17,500
(宇治)	(2,800)	(2,400)	(2,600)
(羽束師)	(7,200)	(5,900)	(5,900)
(加茂)	(15,500)	(10,500)	(10,500)
(請田)	(5,400)	(4,400)	(4,400)
(島ヶ原)	(5,800)	(4,800)	(4,800)
小戸	3,500	3,500	3,500

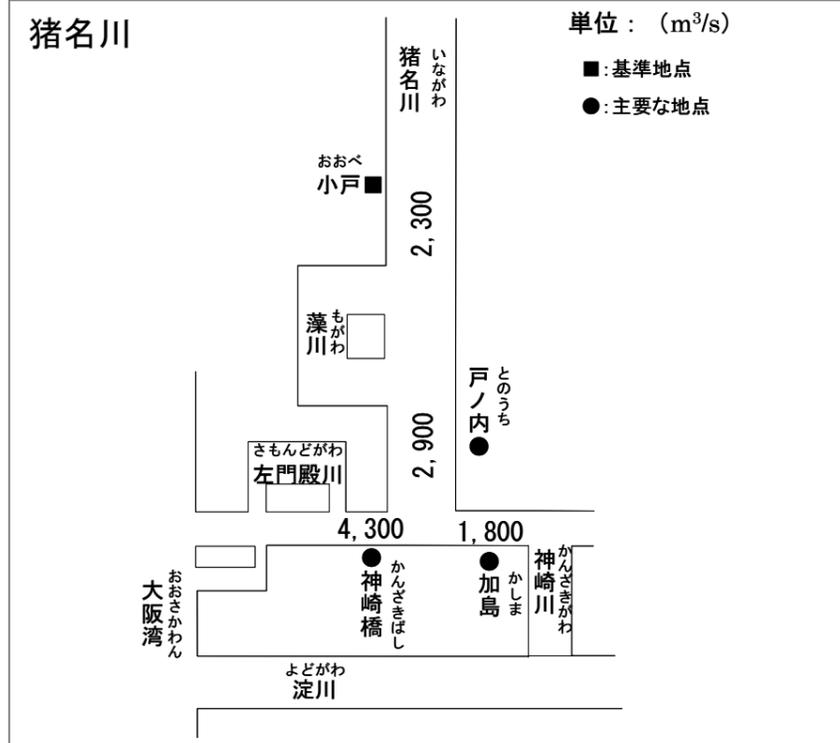
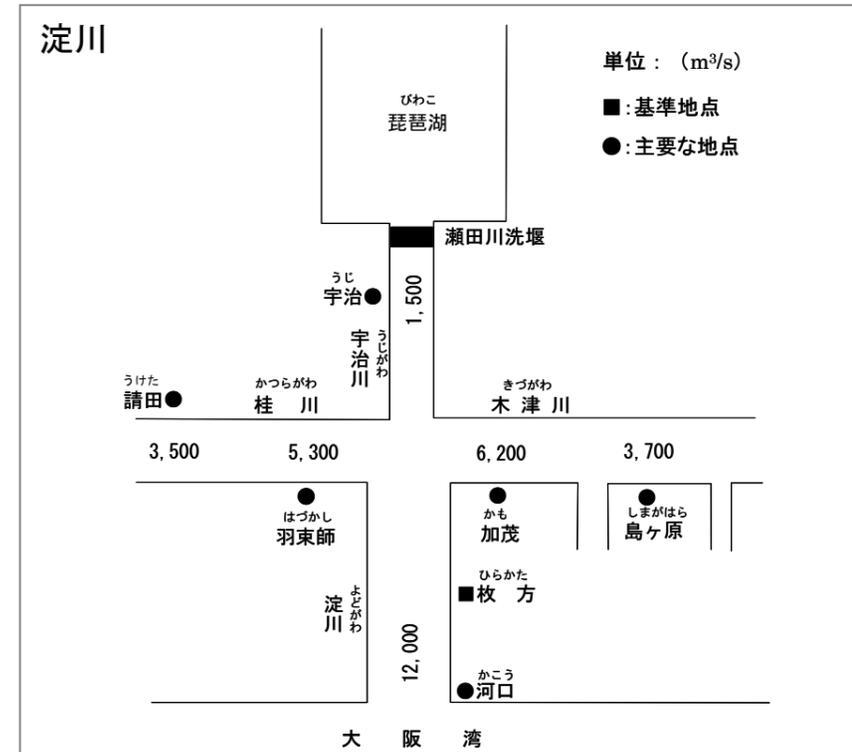


※( )内は主要地点の基本高水であり本文には記載されない



流域および氾濫域の諸元  
 流域面積(集水面積) : 8,240km<sup>2</sup>  
 幹川流路延長 : 75km  
 想定氾濫区域内人口 : 約766万人

## 計画高水流量配分図



# 淀川水系河川整備基本方針の概要(河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持)

- 琵琶湖・淀川流域の特徴ある生物の生息・生育空間の保全・再生に努めるとともに、自然環境との共生、河川特性や地域固有の歴史・文化を活かした利用の実現に努める。
- 流水の正常な機能を維持するために必要な流量は、淀川の高浜地点において、かんがい期に概ね180m<sup>3</sup>/s、非かんがい期には概ね170m<sup>3</sup>/s、猪名川の戸地点において概ね1.4m<sup>3</sup>/sとし、以て流水の適正な管理、河川環境の保全等に資するものとする。
- 琵琶湖・淀川流域全体の自然環境を考慮した水利用を図るため、異常渇水時には琵琶湖の水位が著しく低下する実態を念頭に、流域が一体となって異常渇水対策を含むハード・ソフト両面にわたる対策を講ずる。

## 水辺の自然環境を活かした利用のイメージ



河川やその周辺地域の特性を生かし、自然環境との共生に努める。

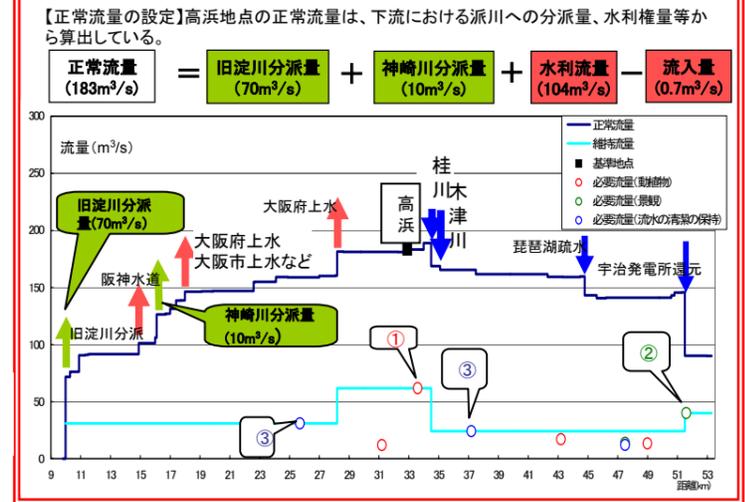
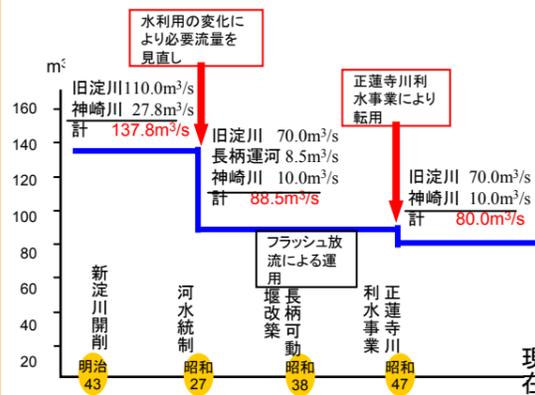


＜水辺のオープンカフェのイメージ＞

河川周辺地域の街づくりや地域づくりと調和した河川利用の促進を図る。

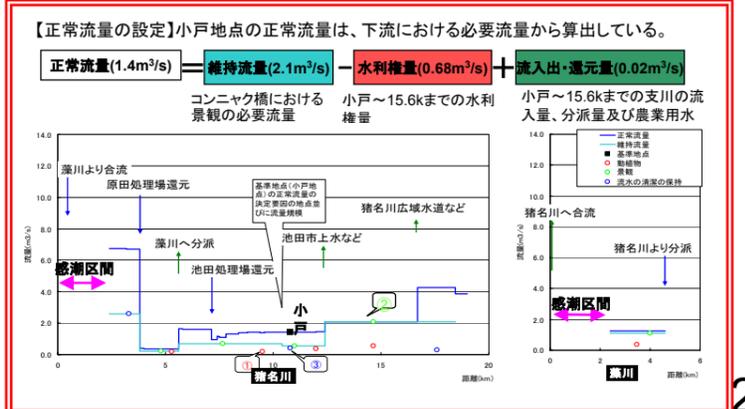
## 流水の正常な機能の維持 (高浜地点)

○淀川下流部の必要流量について新淀川開削以降、段階的な経過を経て成立してきた現状の分派流量(旧淀川70m<sup>3</sup>/s神崎川10m<sup>3</sup>/s)は、それぞれの河川の水質、生物の生息、生育環境の保全等に対して重要な役割を果たしており、地域からも現状分派量の維持が求められている。



## (小戸地点)

○小戸地点必要流量については、「動植物の生息または、生育地の状況」「景観」「流水の清潔の保持」において検討した結果、尼崎上水伏越付近から猪名川分派点の河川景観にて設定



# 淀川水系河川整備基本方針の概要(河川環境の整備と保全)

■琵琶湖・淀川流域の特徴ある生物の生息・生育空間の保全・再生に努めることとし、これまでの流域の人々と琵琶湖、淀川、木津川、桂川や猪名川との関わりを考慮しつつ、良好な河川環境を保全し、多様な生物の生息、生育する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐよう努める。

## 水位低下の抑制による琵琶湖環境の保全

◆琵琶湖の水位操作により、琵琶湖本来の季節的な水位変動パターンが変化し、水際の植生に影響を及ぼすとともに、魚類の産卵環境・稚仔魚の成育環境に影響を与えている。



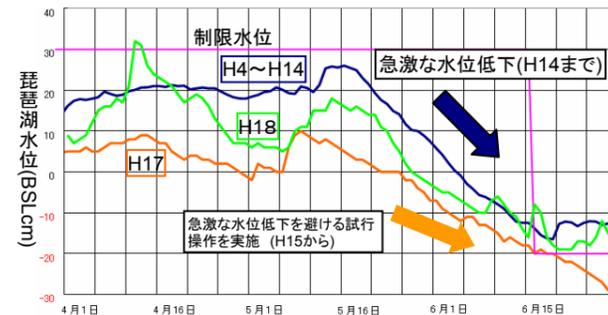
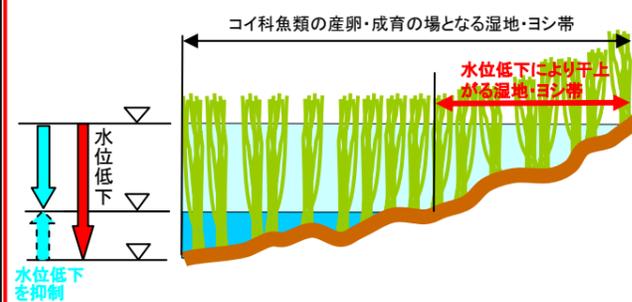
琵琶湖水位+15cmの状態



琵琶湖水位-15cmの状態

水位が低下すると湖岸の湿地やヨシ帯が干上がり水辺環境に影響。特に産卵後の水位低下は卵が干出する。

◆ 降雨により琵琶湖水位が上昇した際にはコイ科魚類の産卵が促され、湿地・ヨシ帯に産み付けられた卵の干出を防ぐため、産卵時の水位を5日間程度維持する瀬田川洗堰の試行操作を4月から7月の期間で実施。



## 水際環境の保全・再生

淀川等におけるワンドやたまりは、昭和30年代まで多数形成されていたが、近年の河川改修によりその多くが失われた。また、砂利採取等に伴う河床低下により、高水敷の冠水頻度が減少し、貴重なヨシ帯に影響を与えている。



施工前



施工後



大阪府水生生物センター提供資料

木津川の特徴である砂州や多様な瀬・淵の保全・再生



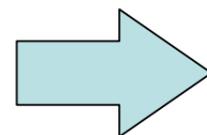
木津川砂州のイメージ

## 外来種対策



アレチウリ繁茂

高水敷の切り下げにより、アレチウリを除去し、河原を再生



猪名川:河原再生による外来種の駆除イメージ



高水敷の切り下げにより、冠水頻度の減少に伴い陸化した鵜殿のヨシ原を再生